
江田島市観光振興計画（案）

～はじめの一步宣言～

（平成 29 年 2 月 27 日時点版）

目 次

1. 計画概要.....	1
2. 本市の観光の現状	2
1) 観光客の動向・観光資源	2
2) 広島市民・呉市民からみた本市の印象	11
3. 本市の観光の魅力・課題.....	13
1) 観光振興における強み・弱み	13
2) 調査から得られた魅力・課題	14
4. 観光振興の理念・施策体系.....	15
1) 観光振興の理念	15
2) 想定ターゲット層と対応コンテンツ	16
3) 施策体系	18
4) 目標数値	19
5. 具体的方策.....	20
1) 魅力ある宿泊観光関連施設の整備	20
2) 来訪のきっかけづくり	21
3) 観光コンテンツ・関連産業づくり	23
4) 江田島市との縁づくり・担い手づくり	25
5) 受入体制の整備	27
資料編	31
1) 策定経緯	31
2) 策定委員会設置要綱	32
3) 策定委員会名簿	35

1. 計画概要

(1) 計画趣旨

本計画は、本市における観光客数・観光消費額の増加を目的として、本市のめざす将来像を設定し、その実現のための基本方針と具体的施策について示すものです。

計画の策定にあたっては、国及び県の観光計画や「第2次江田島市総合計画」などの各種計画を勘案するとともに、平成28年3月に策定された江田島市観光振興のあり方の方向性を踏まえ、本市の観光振興の方向性を明確にし、中長期の目標を掲げ、市と観光関連団体が共通の理念のもと、既存の資源を活かし、または新たに創造し、計画的な事業を実施することにより、着実に成果を上げることがめざします。

(2) 計画期間

第2次江田島市総合計画の計画期間に合わせ、平成29年度から平成36年度の8年間とします。

(3) 計画の位置付け

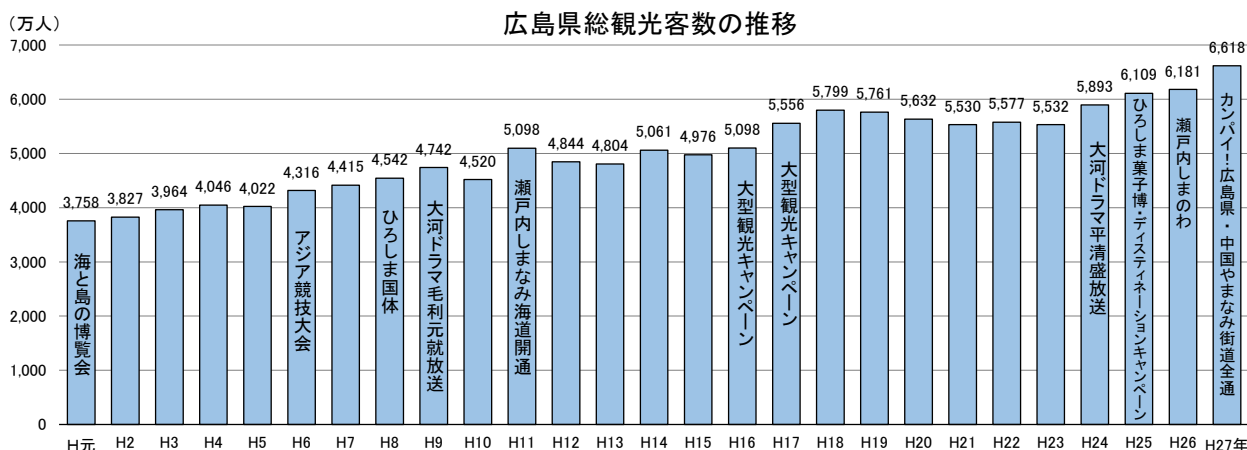
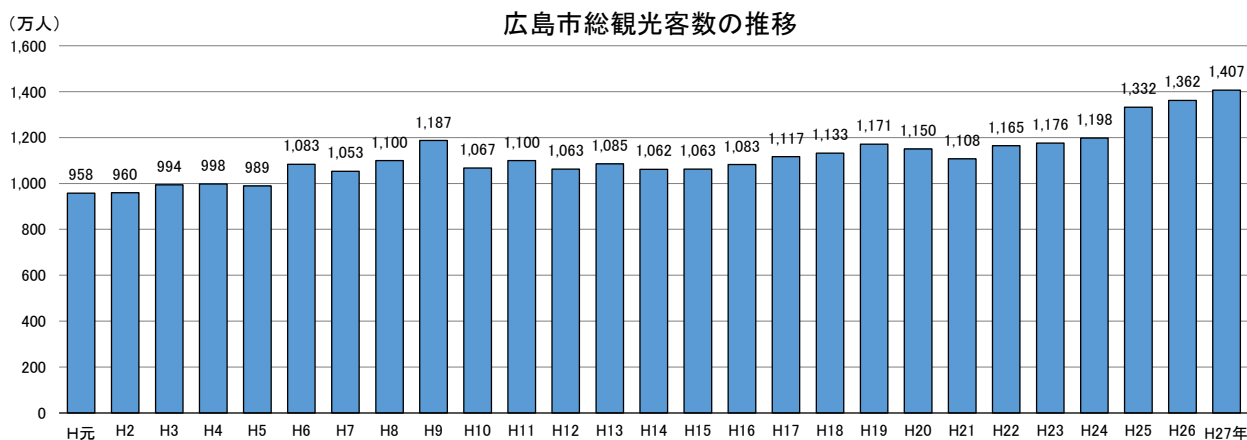
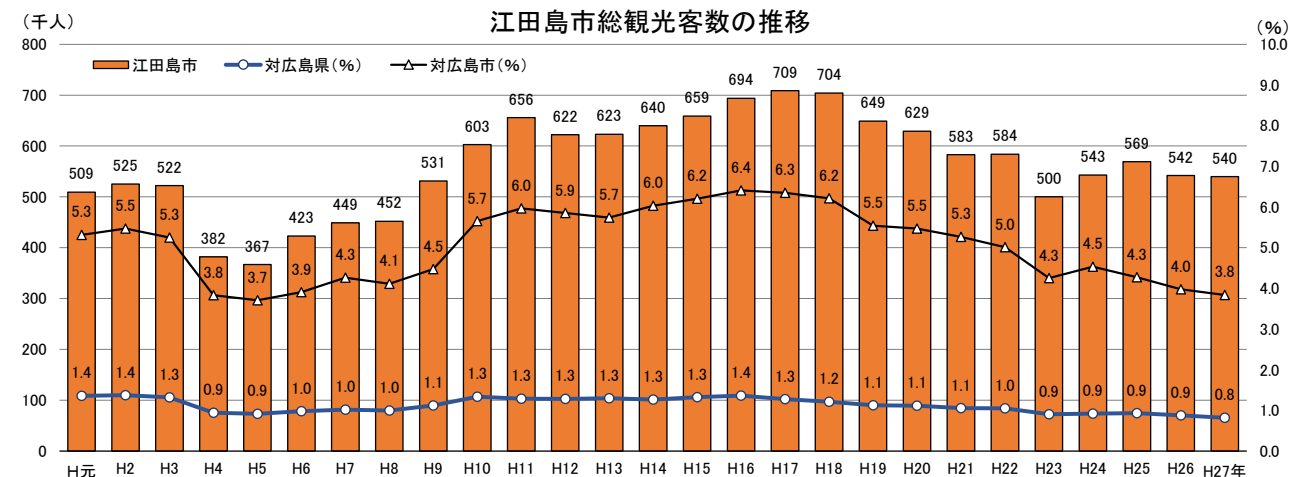
本計画は、第2次江田島市総合計画の部門別計画として位置付けるものです。

2. 本市の観光の現状

1) 観光客の動向・観光資源

(1) 総観光客数の推移

本市の総観光客数は平成 17 年の 70 万 9 千人をピークに減少傾向にあり、平成 27 年は 54 万人となっています。第 2 次江田島市総合計画（平成 27 年 3 月）では、平成 36 年度に交流人口（総観光客数）100 万人を目指すこととしており、広島市、広島県の総観光客数が増加傾向であることから、江田島市のポテンシャルを発揮した観光客数の増加を図る必要があります。



(資料) 広島県観光客数の動向 (平成 27 年)

(2) 観光資源及び公園等の状況

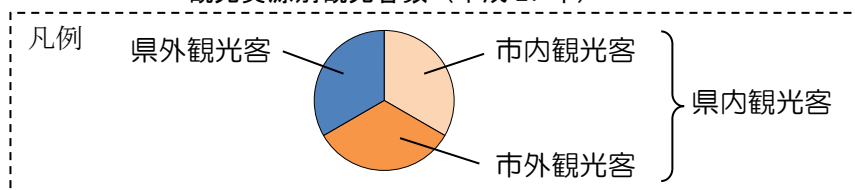
本市には、海軍ゆかりの施設等の歴史資源や瀬戸内海を中心とする自然資源など、以下のような観光資源があります。



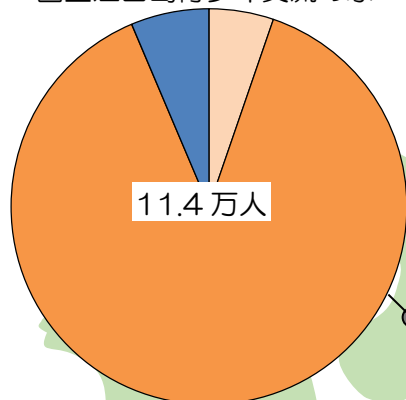
(資料) 江田島市観光グルメガイド, 江田島市公園等管理・活用計画 (素案) (H28.3) 等

資源別の観光客数は、以下のとおりであり、国立江田島青少年交流の家、シーサイド温泉のうみ、海上自衛隊第1術科学校の観光客数が多いことが分かります。

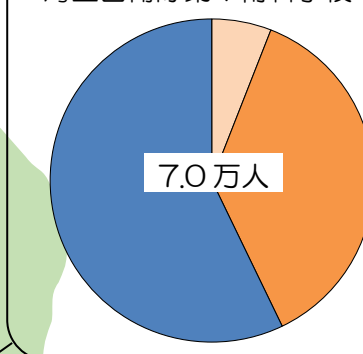
観光資源別観光客数（平成27年）



国立江田島青少年交流の家



海上自衛隊第1術科学校



ふるさと交流館



学びの館



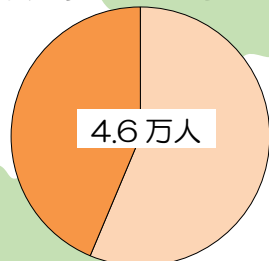
サンビーチおきみ
0.3 万人



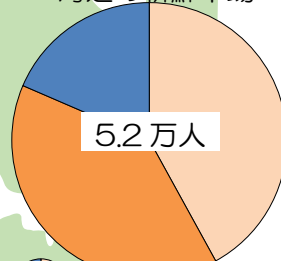
入鹿海水浴場
0.3 万人



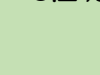
ふれあいプラザさくら



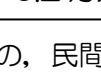
海辺の新鮮市場



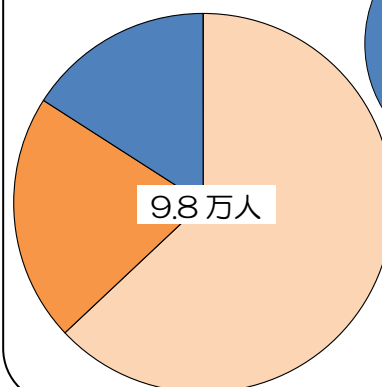
さとうみ科学館
0.2 万人



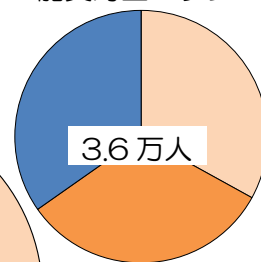
長浜海水浴場
0.2 万人



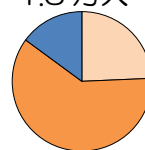
シーサイド温泉のうみ



能美海上ロッジ

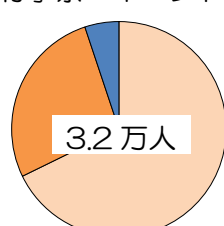


長瀬海岸
1.3 万人

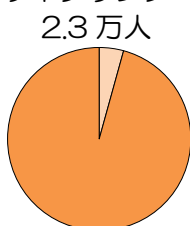


上記以外（地図上に掲載できないもの、民間施設等の合計）

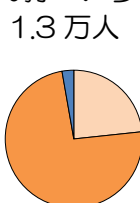
行事祭・イベント



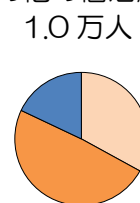
サイクリング



みかん狩・いちご狩



その他の宿泊施設



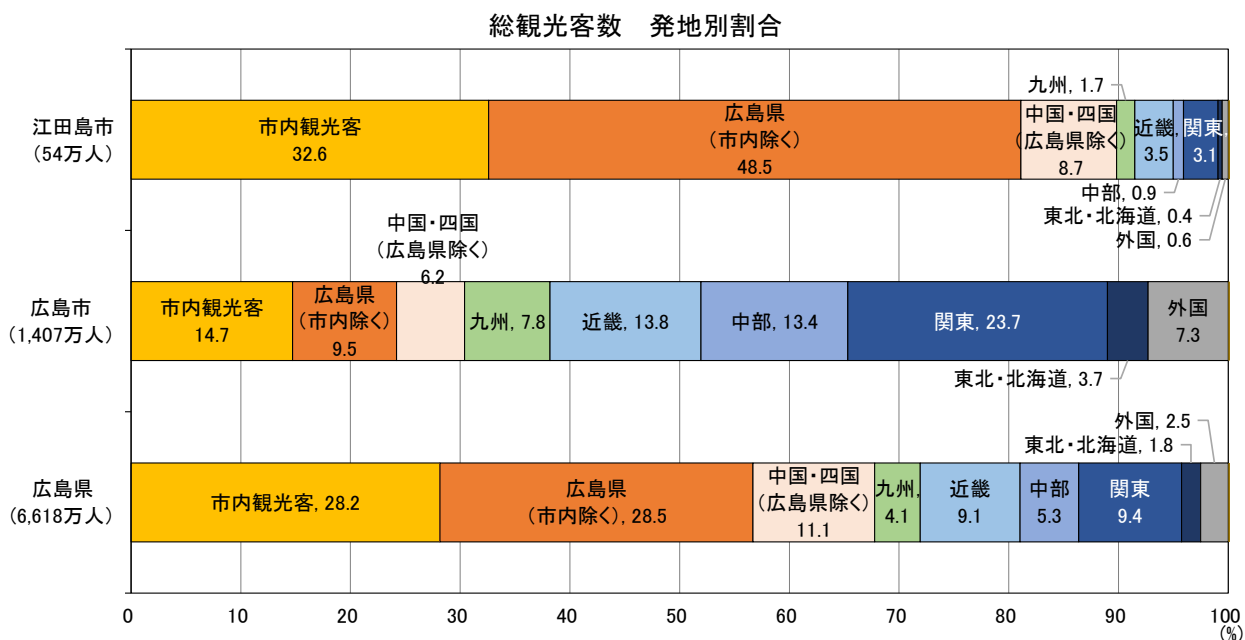
キャンプ場



（資料）江田島市資料

(3) 観光客の発地別割合

本市を訪れる観光客の発地は、江田島市内が 32.6%、江田島市を除く広島県内が 48.5%と全体の 8 割が広島県内となっています。広島県、広島市と比較して近隣からの来訪が多く、ターゲットとして近隣客の一層の来訪促進を図るとともに、遠方の観光客の来訪促進も図る必要があります。

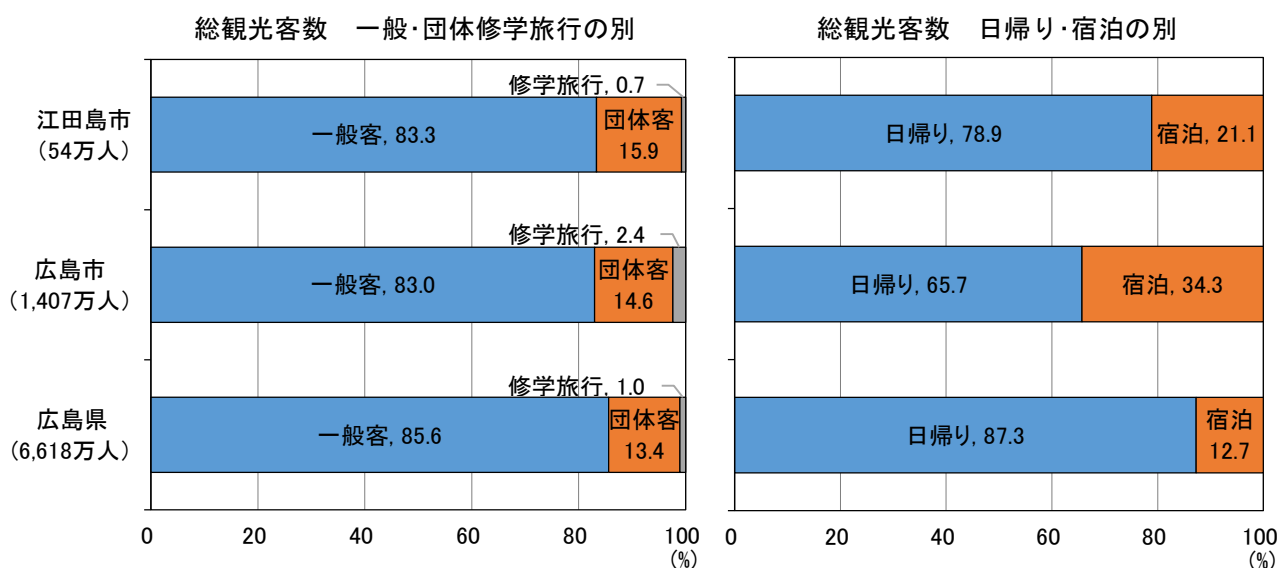


(資料) 広島県観光客数の動向 (平成 27 年)

注) 観光客数について、当該市町の区域外から訪れた観光客数を集計した「入込観光客数」と、入込観光客数に地元観光客数(市町の区域内での観光客数)を加えた「総観光客数」があり、「広島県観光客数の動向」では区域内も含めた観光客がもたらす観光関連消費額を増大させる観点から「総観光客数」を採用している。

(4) 観光客の旅行形態別割合

本市を訪れる観光客の形態をみると、一般客が83.3%と広島県、広島市と同様となっています。また、宿泊は21.1%と、広島県よりも高くなっていますが、多くは国立江田島青少年交流の家の宿泊者数と考えられます。

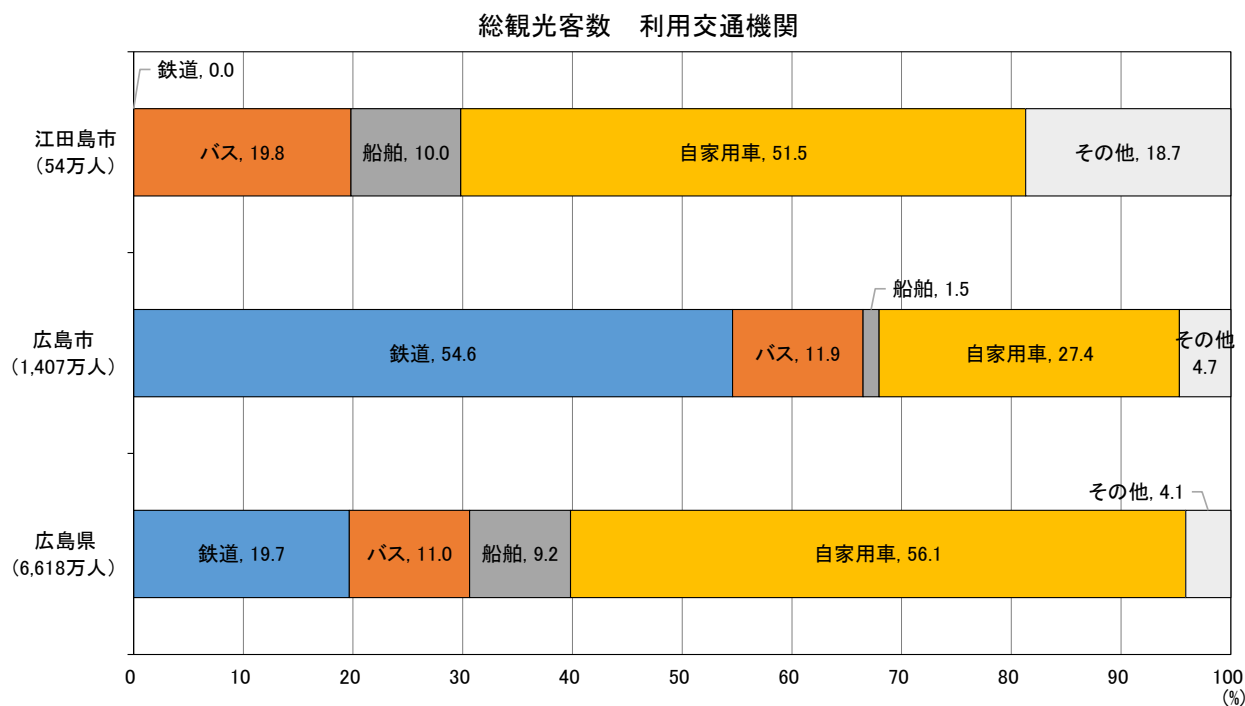


(資料) 広島県観光客数の動向 (平成 27 年)

(5) 観光客の利用交通機関別割合

本市を訪れる観光客の利用交通機関は自家用車が51.5%と過半数であり、船舶は10.0%と少なくなっています。

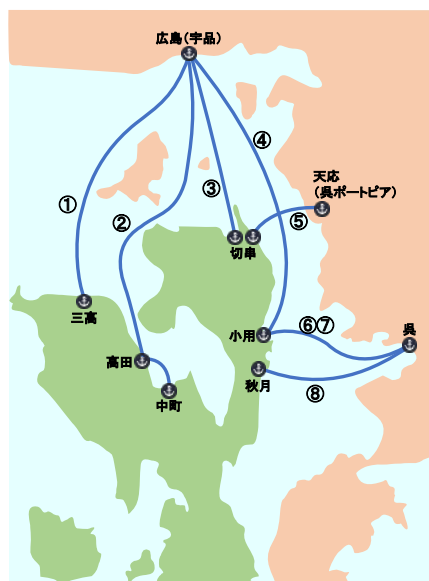
航路別にみると、便数が多い航路は広島港⇄高田・中町港（高速船）、広島港⇄切串港（フェリー）ですが、地元利用が多くなっており、観光客の利用が多い航路は呉港⇄小用港（フェリー）、広島港⇄小用港（高速船）の小用港を利用する航路となっています。



(資料) 広島県観光客数の動向 (平成 27 年)

航路の状況

区間	種別	便数 / 日	旅客運賃 (大人片道)	休日観光利用割合
①広島港⇄三高港	フェリー	16	680 円	5.5%
②広島港⇄高田・中町港	高速船	23	960 円	5.5%
③広島港⇄切串港 (西沖)	フェリー	22	460 円	5.0%
④広島港⇄小用港	高速船	20	1,060 円	23.2%
⑤天応⇄切串港 (吹越)	フェリー	20	290 円	17.6%
⑥呉港⇄小用港	高速船	13	550 円	9.8%
⑦呉港⇄小用港	フェリー	13	390 円	30.8%
⑧呉港⇄秋月港	旅客船	7	520 円	-

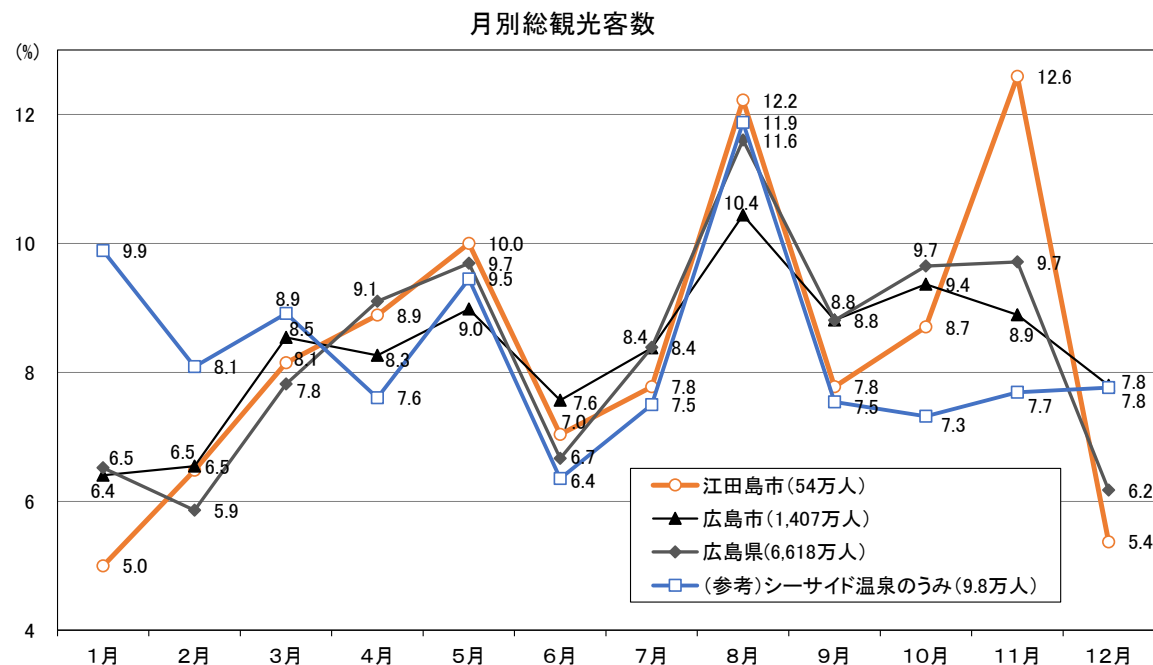


※「休日観光利用割合」は、江田島市航路利用者アンケート調査（平成 28 年 2 月実施）における休日調査結果より、全サンプルに占める観光目的利用者の割合を算出したもの

(資料) 江田島市航路利用者アンケート調査（平成 28 年 2 月実施）

(6) 観光客の月別割合

江田島市を訪れる観光客の月別割合をみると、海水浴、みかん狩り等季節に応じたアクティビティが提供されている8月、11月が多くなっており、1月、12月が最も少ない時期となっています。シーサイド温泉のうみの利用者数の月別割合は冬季が多いことから、温泉施設の利用促進により観光客数の平準化が図れるものと推察されます。



(資料) 広島県観光客数の動向 (平成 27 年)

(7) サイクリストの状況

サイクリストの船舶による入島数は 9,056 人となっており、今後も増加が期待されます。

船舶によるサイクリスト入島数(平成 27 年)

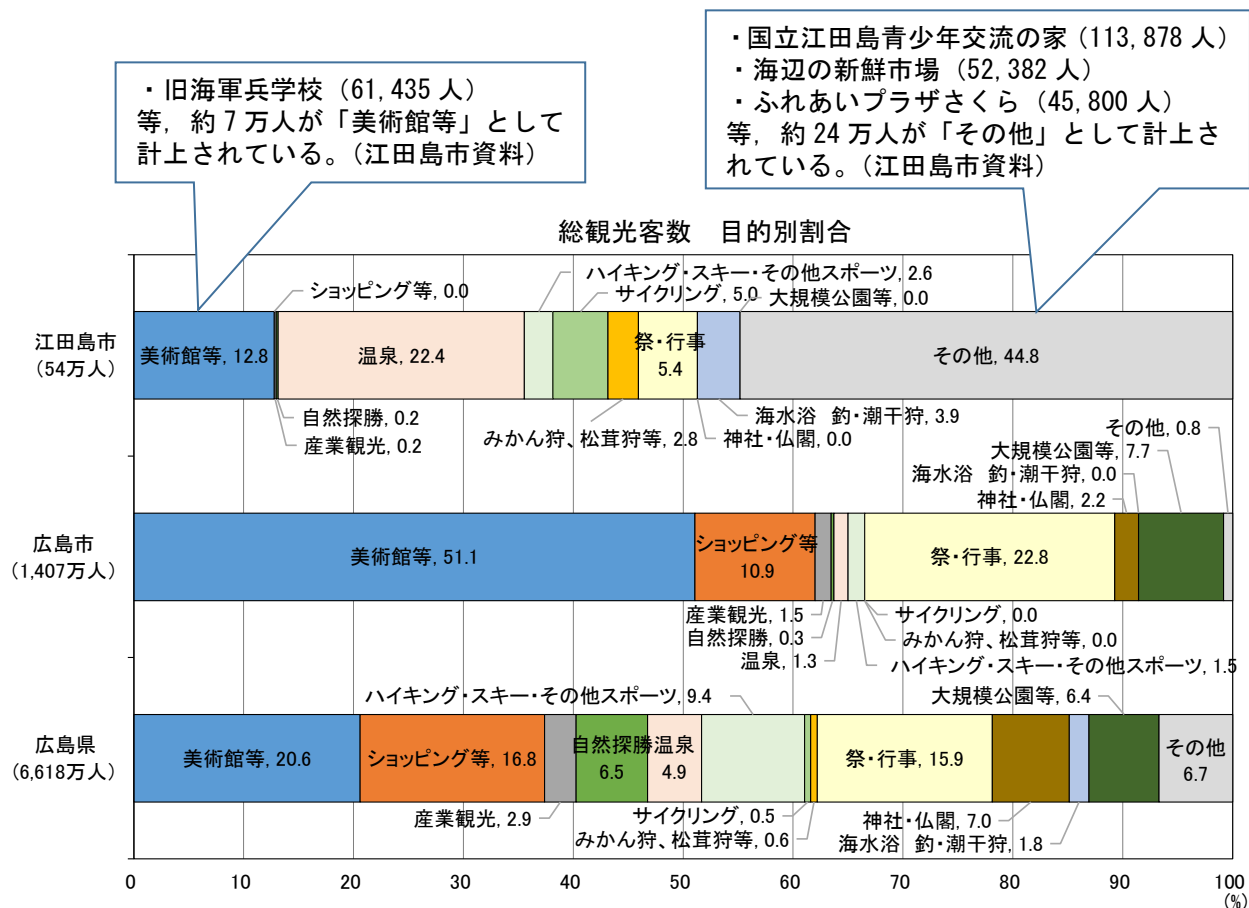
(単位: 人)

航路・月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
上村(宇品～切串)	244	319	234	355	456	419	303	400	542	525	435	334	4,566
江田島(宇品～三高)	82	74	146	103	123	77	58	123	83	95	68	98	1,130
さくら(呉ポ～切串)	142	120	147	151	220	173	152	194	201	224	183	175	2,082
シーライン(宇品～切串)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シーライン(呉～小用)	91	96	100	94	108	103	111	106	127	144	94	99	1,273
バンカー(呉～秋月)	0	0	1	1	0	0	0	2	0	1	0	0	5
	559	609	628	704	907	772	624	825	953	989	780	706	9,056

(資料) 江田島市資料

(8) 観光客の目的別割合

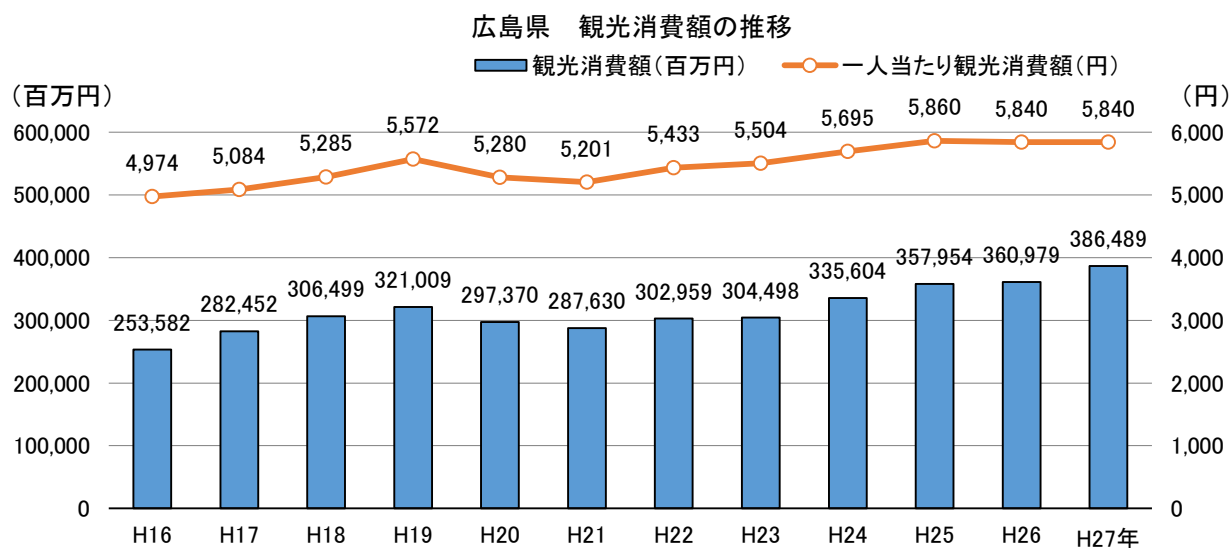
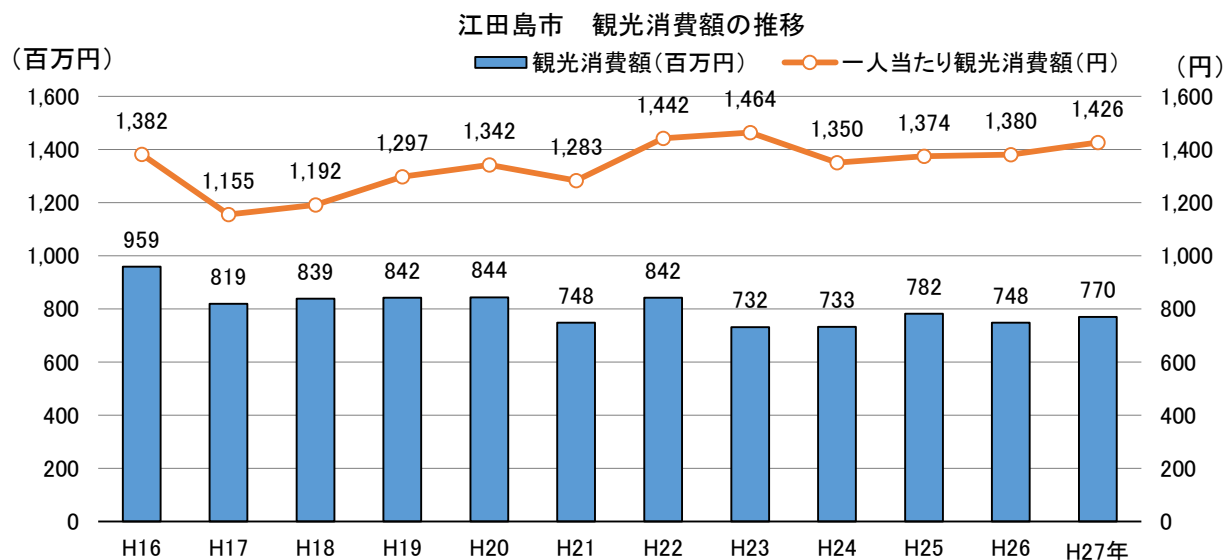
本市を訪れる観光客の目的別割合をみると、「その他」の割合が 44.8%となっています。江田島市資料において詳細をみると、国立江田島青少年交流の家や海辺の新鮮市場等が「その他」として計上されています。次いで「温泉」が 22.4%、「美術館等」が 12.8%と多くなっています。広島市や広島県と比較すると、サイクリング、みかん狩り等は多くなっています。



(資料) 広島県観光客数の動向 (平成 27 年)

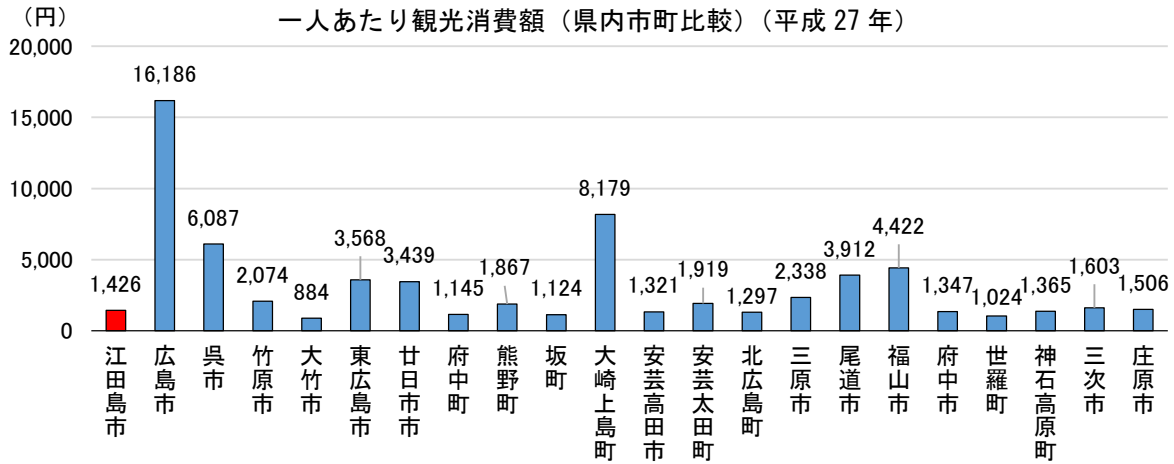
(9) 観光消費額

江田島市を訪れる観光客の観光消費額をみると、総額は横ばいであり、平成 27 年で 7 億 7,000 万円となっています。一人当たり観光消費額は 1,400 円前後で推移しており、広島県と比較すると約4分の1の水準となっています。江田島市の観光振興に向けて、観光客数の増加とともに、観光消費額の増加および市内調達率の向上による地元経済への波及が必要です。

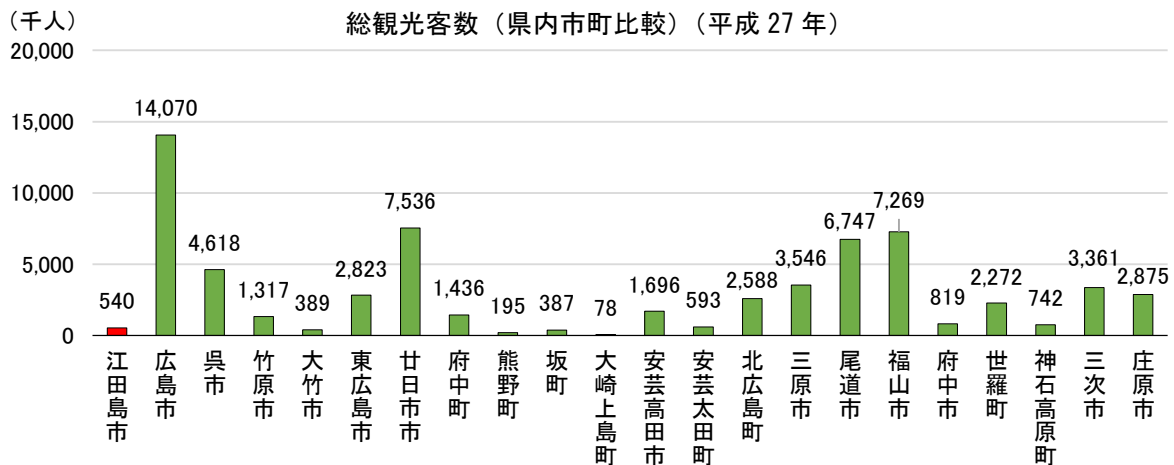


(資料) 広島県観光客数の動向(平成 27 年)

一人あたり観光消費額を他の県内市町と比較してみると、市では大竹市、府中市、安芸高田市に次いで低くなっています。また、同程度の総観光客数である安芸太田町(59万人)は1,919円、離島である大崎上島町は8,179円となっており、それぞれ温泉宿泊施設が観光消費額を押し上げていると考えられます。



※海田町(数値無し)を除く



※海田町(数値無し)を除く

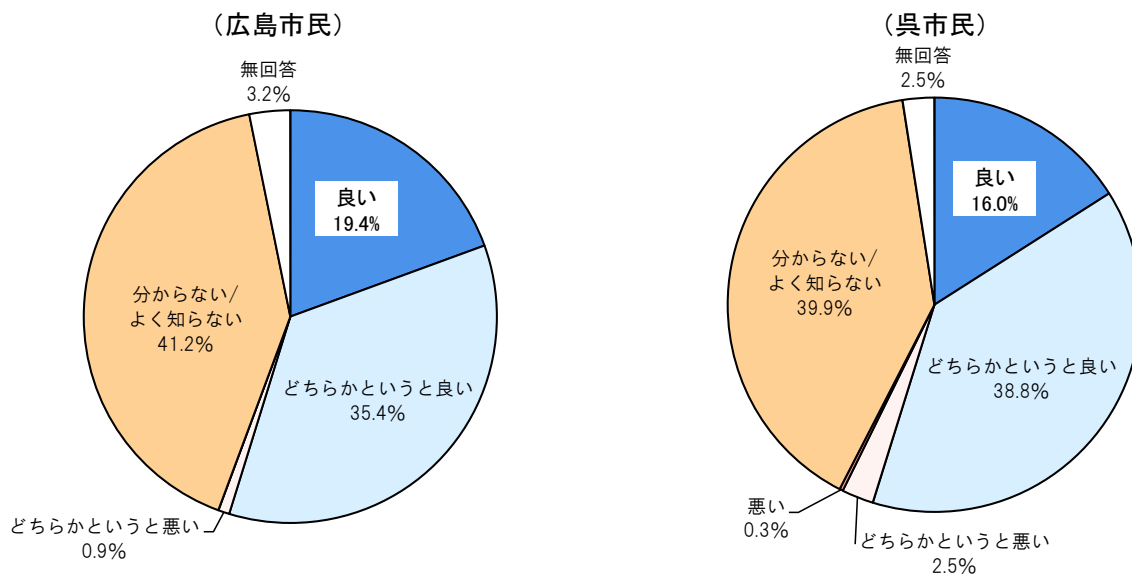
(資料) 広島県観光客数の動向（平成27年）

2) 広島市民・呉市民からみた本市の印象

(1) 全般的な印象

広島市・呉市からみた江田島市の印象は、良いイメージが過半数となっており、悪い印象はほとんどありません。しかし、「分からない／よく知らない」が4割程度となっており、隣接する都市圏において江田島市の持つ魅力等が知られていないとも言えます。

江田島市の印象について

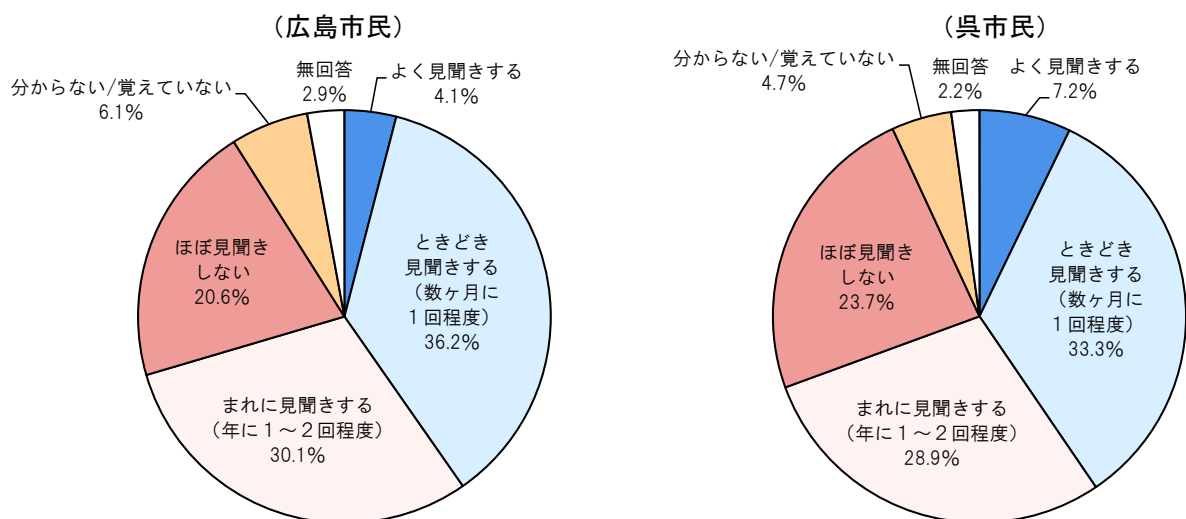


(資料) 江田島市印象調査 (平成 28 年 3 月) ※平成 27 年 12 月～平成 28 年 1 月にアンケート実施

(2) 情報入手頻度

江田島市の情報や話題の見聞きした頻度については、ときどき見聞きする（数ヶ月に1回程度）が最も多く、良く見聞きすると合わせて約4割となっています。

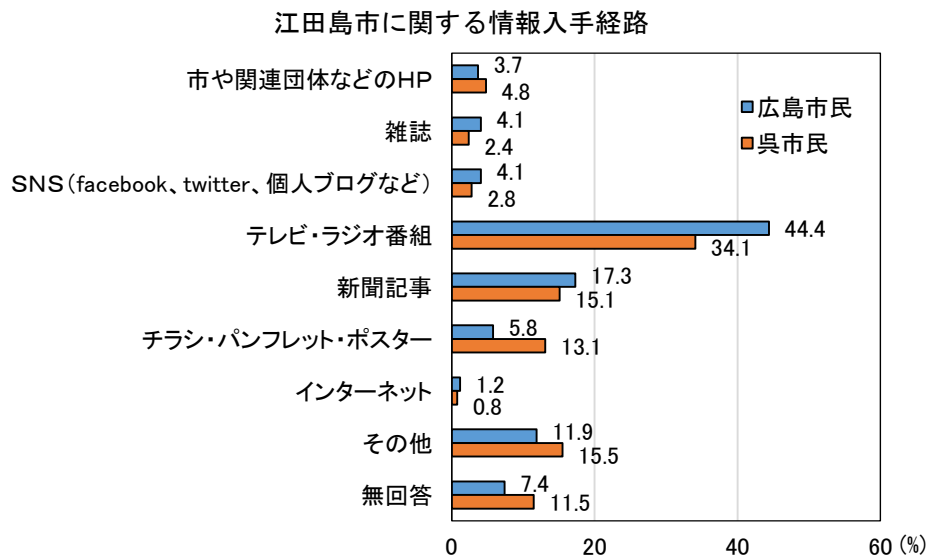
江田島市の情報や話題の見聞きについて



(資料) 江田島市印象調査 (平成 28 年 3 月) ※平成 27 年 12 月～平成 28 年 1 月にアンケート実施

(3) 情報入手経路

江田島市の情報入手する経路はテレビ・ラジオ番組が最も多くっており、地元情報を扱うローカルテレビ・ラジオの効果が高いと考えられます。



(資料) 江田島市印象調査 (平成 28 年 3 月) ※平成 27 年 12 月～平成 28 年 1 月にアンケート実施

(4) 興味のある情報

興味のある場所や行事では、海上自衛隊第 1 術科学校 (旧海軍兵学校) が第 1 位となっていますが、年代別にみると、若い世代はカキ祭り等のイベントや果物、眺望、マリンスポーツが上位に挙がっており、世代間の違いがみられます。

江田島市の場所や行事などで興味があるもの

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
全体 (N=708)	海上自衛隊第 1 術科学校 (旧海軍兵学校) (施設)	カキ祭り (イベント)	サマーフェスタ江田島・花火大会 (イベント)
20 歳未満 (N=22)	カキ祭り (イベント)	サマーフェスタ江田島・花火大会 (イベント)	イチゴや柑橘などの果物
20～29 歳 (N=65)	カキ祭り (イベント)	サマーフェスタ江田島・花火大会 (イベント)	瀬戸内の多島美、夕日など (眺望)
30～39 歳 (N=85)	カキ祭り (イベント)	サマーフェスタ江田島・花火大会 (イベント)	海水浴・釣り・カヌーなどのマリンスポーツ
40～49 歳 (N=106)	カキ祭り (イベント)	海上自衛隊第 1 術科学校 (旧海軍兵学校) (施設)	サマーフェスタ江田島・花火大会 (イベント)
50～59 歳 (N=94)	海上自衛隊第 1 術科学校 (旧海軍兵学校) (施設)	カキ祭り (イベント)	サマーフェスタ江田島・花火大会 (イベント)
60～69 歳 (N=148)	海上自衛隊第 1 術科学校 (旧海軍兵学校) (施設)	カキ祭り (イベント)	瀬戸内の多島美、夕日など (眺望)
70 歳以上 (N=186)	海上自衛隊第 1 術科学校 (旧海軍兵学校) (施設)	カキ祭り (イベント)	豊かな自然環境 (海・山)

(資料) 江田島市印象調査 (平成 28 年 3 月) ※平成 27 年 12 月～平成 28 年 1 月にアンケート実施

3. 本市の観光の魅力・課題

1) 観光振興における強み・弱み

江田島市の観光振興における強み、弱みについて、以下のとおり整理しました。様々な資源がある一方、拠点、アクセス、体制について課題があることが示されています。

	強み		弱み
資源	自然	・朝焼け、夕焼け、多島美、瀬戸内海の景観等、豊富な自然景観・農業景観 ・温泉(ラドン温泉)	・観光地としての魅力が弱く、滞在時間が短い ・江田島の知名度が低い ・海岸線の整備不良、海の汚れ、荒廃農地等、景観が良くない ・登山ルートの整備不良等、「島」の自然を生かしきれていない ・体験メニューの申し込み等が分かりにくい(申込先・料金・予約方法等)
	歴史・文化	・海上自衛隊第1術科学校をはじめとする海軍関連資源 ・神社、仏閣、地蔵等の歴史・文化資源	
	アクティビティ	・サイクリング、トレッキング、マリンスポーツ等のアウトドアスポーツ環境 ・体験型観光	
	イベント	・季節に応じた各種イベント等	
特産品	・柑橘・花・カキ(3F:フルーツ・フラワー・フィッシュ)の産地 ・県内最大のオリーブ産地 ・醤油店、豆腐店、海辺の新鮮市場、さくら、オリーブファクトリー等の販売場所		・一定規模の生産が可能な特産品(お土産)がない ・カキ等、地元産品を食べる場所、買える場所がない(少ない)
アクセス	・アクセスが良い(船便の多さ、架橋) ・観光タクシーがある		・公共交通機関が少ない(自家用車かタクシーを利用する必要がある) ・島内を周回している道路が狭い(サイクリング) ・駐車場が無い ・船賃が高い ・船でのアクセスが不便な場所がある ・観光スポットまでの交通アクセスに関する情報が乏しい
拠点施設	・新たな民間宿泊施設の建設が予定されている		・道の駅等、江田島市観光の拠点となる施設が無い ・温泉施設等観光施設の老朽化 ・宿泊施設、飲食店が少ない ・観光客向けの駐車場・トイレの少なさ ・公園や緑地等の整備が不十分
受入体制・組織	・1市1島であり、PR等まとまった活動が行いやすい		・市と観光協会、商工会、各団体等との連携不足、共有するビジョンが無い ・観光案内所が少ない、分かりにくい ・人材不足、人材活用不足 ・イベントが多く新規事業ができない

(資料) 江田島市観光振興のあり方(平成27年3月)を元に作成

2) 調査から得られた魅力・課題

観光データやヒアリング調査等から得られた観光の魅力・課題として、以下の点が挙げられます。

魅力

豊富な自然環境

- ・周囲を瀬戸内海に囲まれた江田島市は、海、山の自然環境に恵まれ、海に見える温泉や展望地、マリンレジャー、アウトドアレジャー環境が豊富である。

歴史文化資源の充実

- ・旧海軍兵学校を中心に、海軍にゆかりのある歴史文化資源が充実しており、呉市の大和ミュージアム等の周辺資源との連携も可能となっている。

質の高い一次産品

- ・3F（フルーツ・フラワー・フィッシュ）やオリーブ等、質の高い一次産品に恵まれている。

多彩なイベントの開催

- ・自然資源、歴史資源、食資源等を活用した、魅力ある多彩なイベントが開催されている。

体験型修学旅行の誘致

- ・民泊を活用した体験型修学旅行の誘致が進んでおり、体験学習のフィールドとしての役割を担っている。

多様なアクセスが可能

- ・航路が多く、また橋により陸続きとなっており、様々な観光ルート形成が可能となっている。

課題

乏しい集客拠点

- ・観光客の来訪目的は「その他」目的が多い。
- ・「滞在時間が短い」「魅力が弱い」「観光場所が点在」等が指摘されている。

観光地としての認知度不足

- ・広島県・広島市の観光客数の伸びに対して、江田島市の観光客数は減少傾向にある。
- ・市内観光客の割合が高い。

観光消費額の低迷

- ・一人当たり観光消費額は1,400円前後で推移。広島県の約1/4の水準。
- ・宿泊割合は2割程度。青少年交流の家の利用者が多い。

少ない観光客向けサービス・商品

- ・観光客向けの宿泊施設、飲食店、物販施設が少ない。駐車場、トイレなども少ない。
- ・土産物など観光客向けの商品が少ない。

観光推進の体制・連携不足

- ・各団体等との連携不足。
- ・関係団体が共有するビジョンの欠如（方向の一体感の無さ）

アクセス（船賃、島内交通）

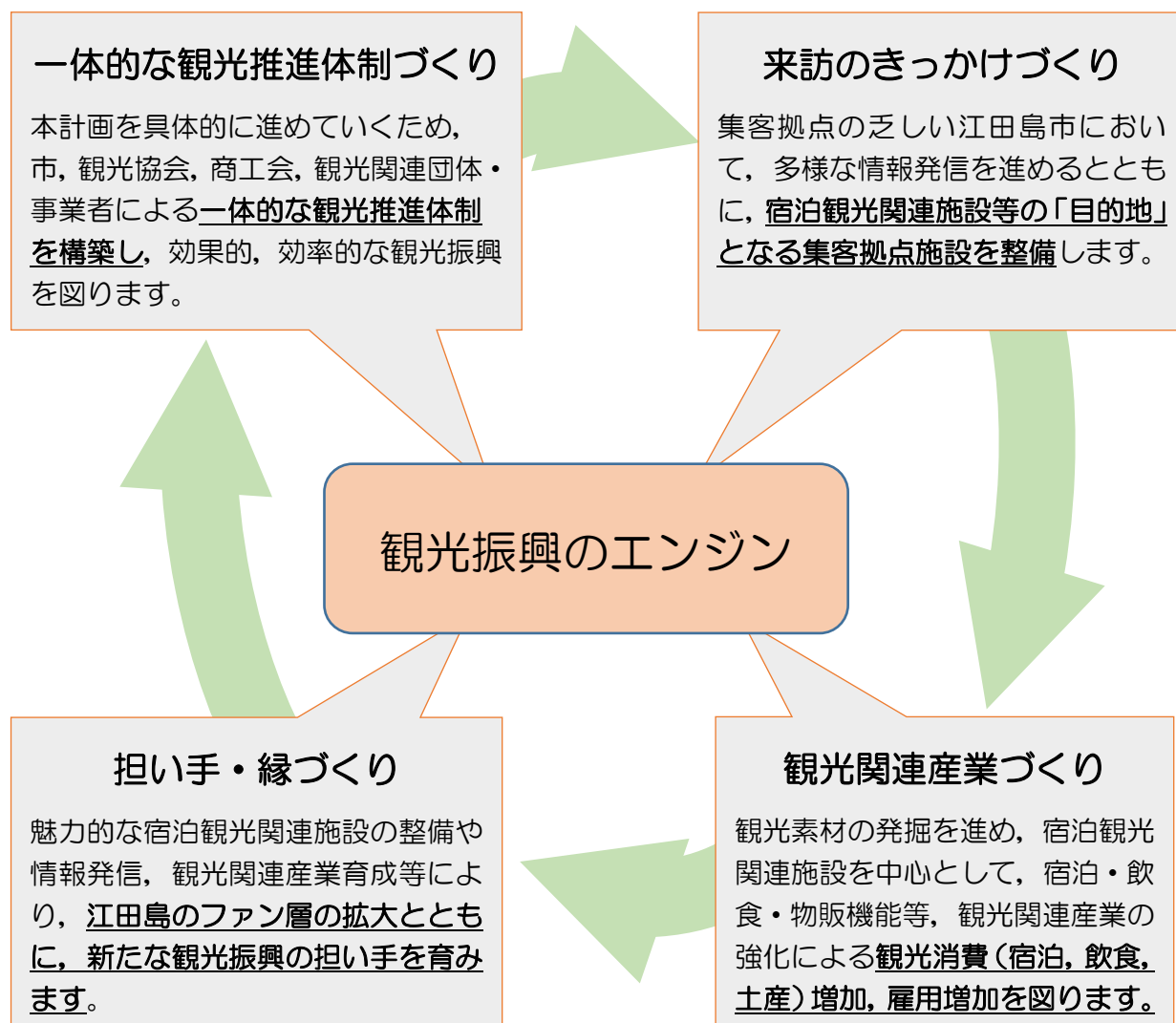
- ・島内の公共交通機関が少ない。自家用車かタクシーを利用する必要がある。
- ・船賃が高い（船便は多い）。
- ・サイクリングロードの整備不足。

4. 観光振興の理念・施策体系

1) 観光振興の理念

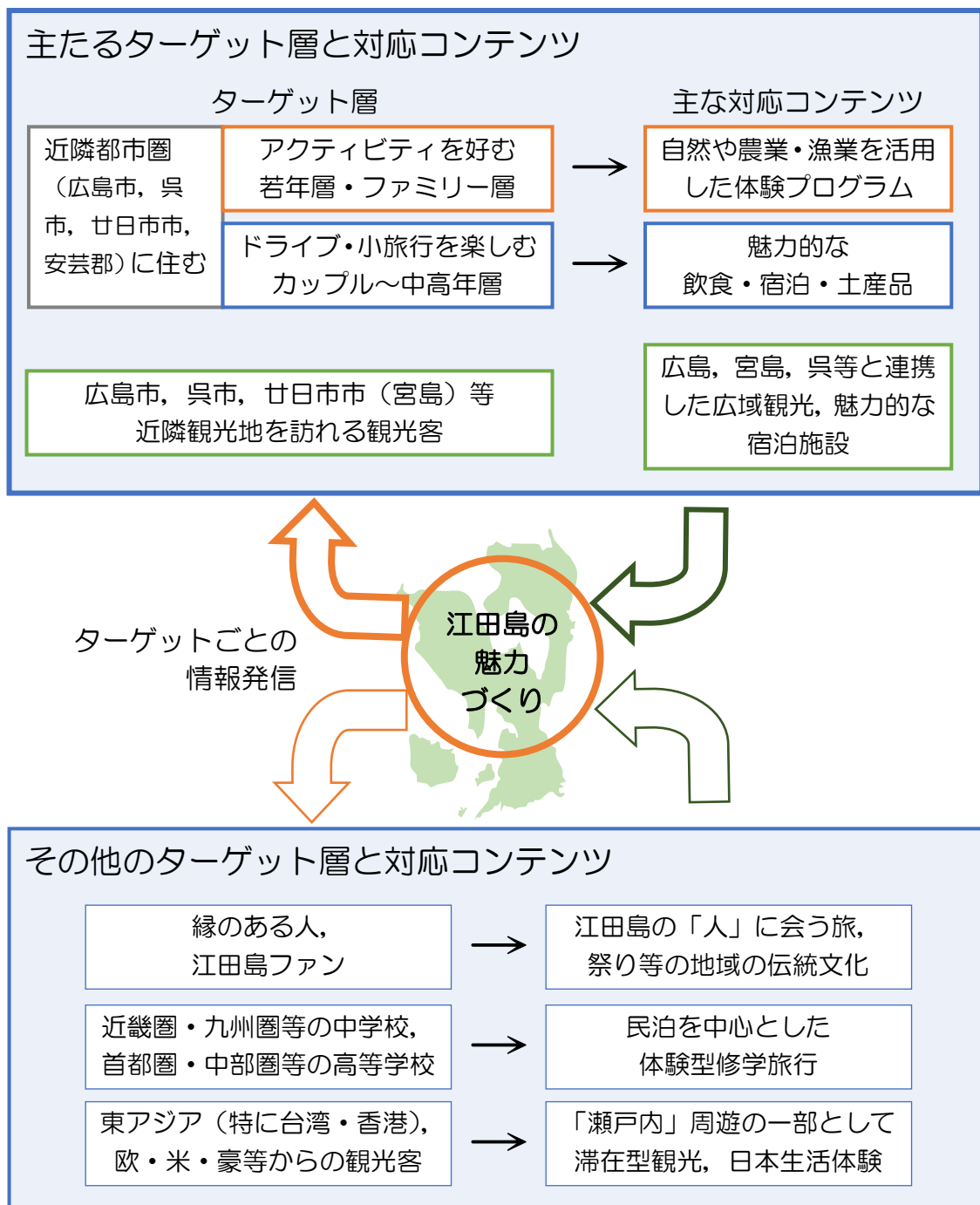
本市への来訪のきっかけをつくり、観光を「産業」として育成することにより新たな雇用を生み、江田島ファンや観光の担い手を増やすことを一体的な観光推進体制により進める、この観光振興のエンジンを回転させることにより交流人口100万人をめざすこととします。

観光振興のエンジンを回転させることで、交流人口100万人をめざす



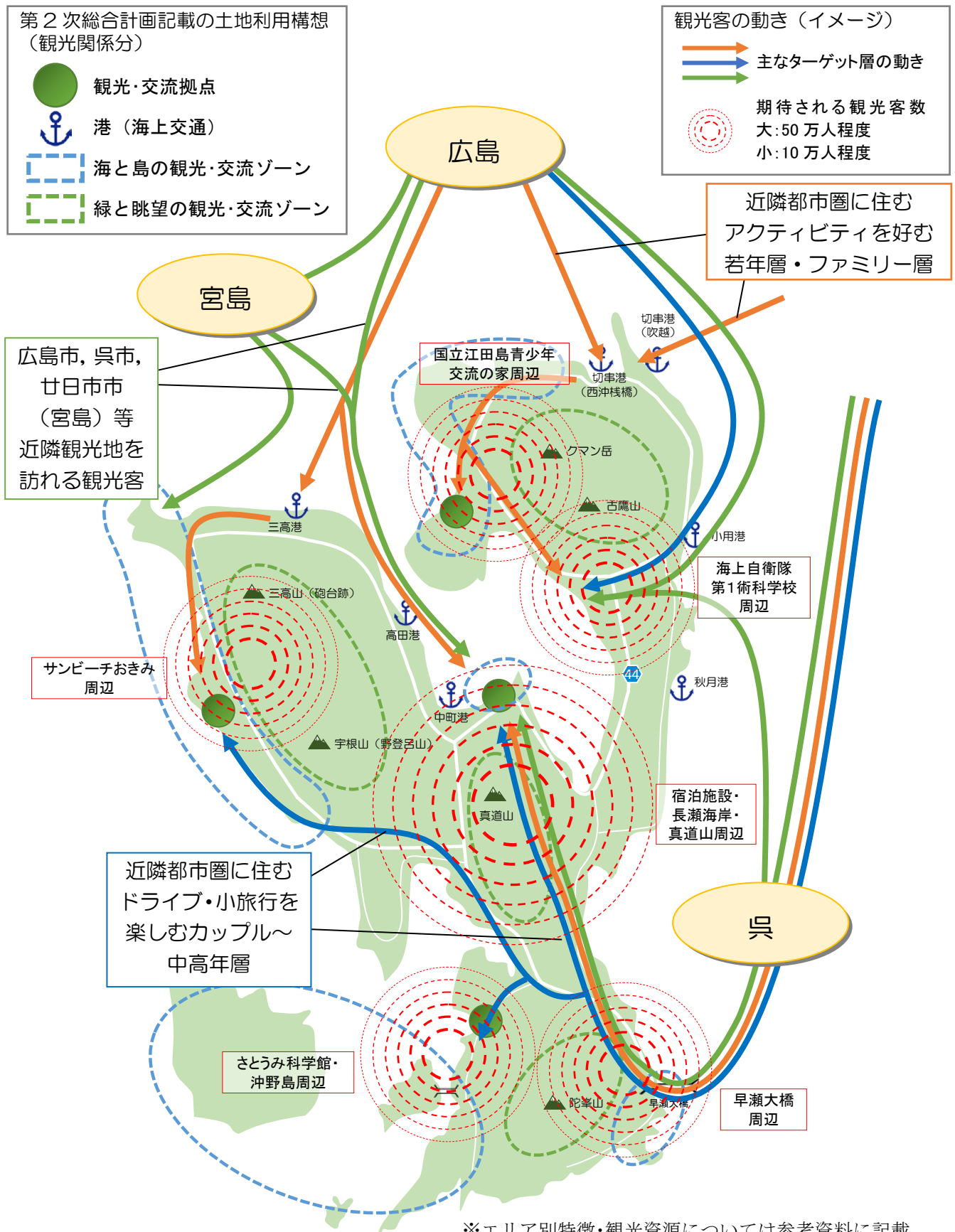
2) 想定ターゲット層と対応コンテンツ

本市の魅力と課題、強み・弱みを踏まえ、主たるターゲットとして近隣都市住民及び近隣観光地を訪れる観光客を掲げます。近隣都市住民向けとして、アクティビティを好む若年層・ファミリー層をターゲットとした体験プログラムや、ドライブ・小旅行を楽しむカップルや中高年層向けの魅力的な飲食・宿泊・土産物の整備等を進め、多様な資源との組み合わせにより誘客を図ります。また、近隣観光地を訪れる観光客向けには、宮島や呉と江田島を結び広域的な周遊ルートを形成し、宿泊場所として選ばれるよう魅力的な宿泊施設の整備等を進めます。



江田島市第2次総合計画では、平成36年度に交流人口の倍増（総観光客数100万人）を掲げており、観光に関連した土地利用構想として「観光・交流拠点」「海と島の観光・交流ゾーン」「緑と眺望の観光・交流ゾーン」を示しています。

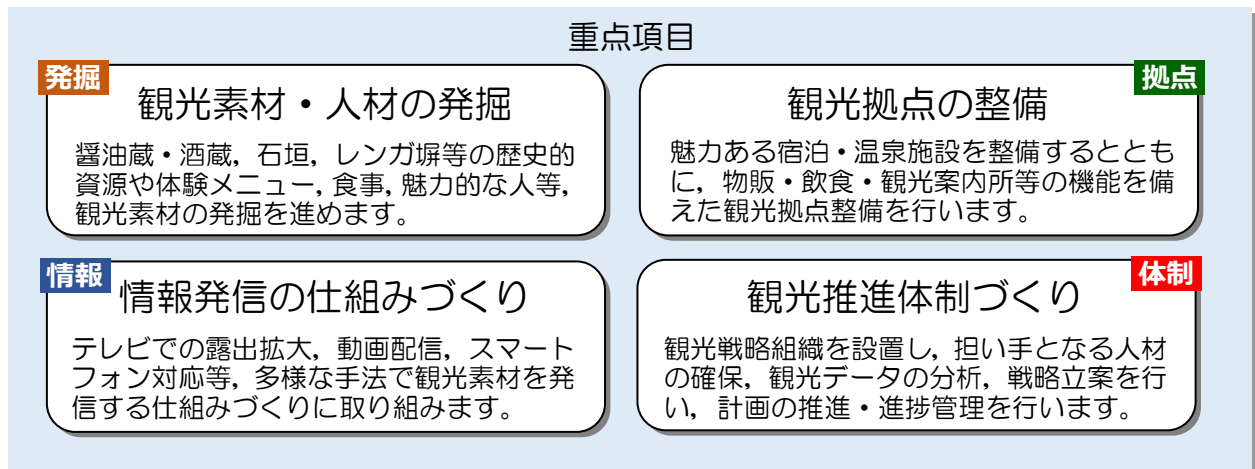
総合計画の土地利用構想に沿って、主なターゲット層を示すと以下のとおりとなります。



3) 施策体系

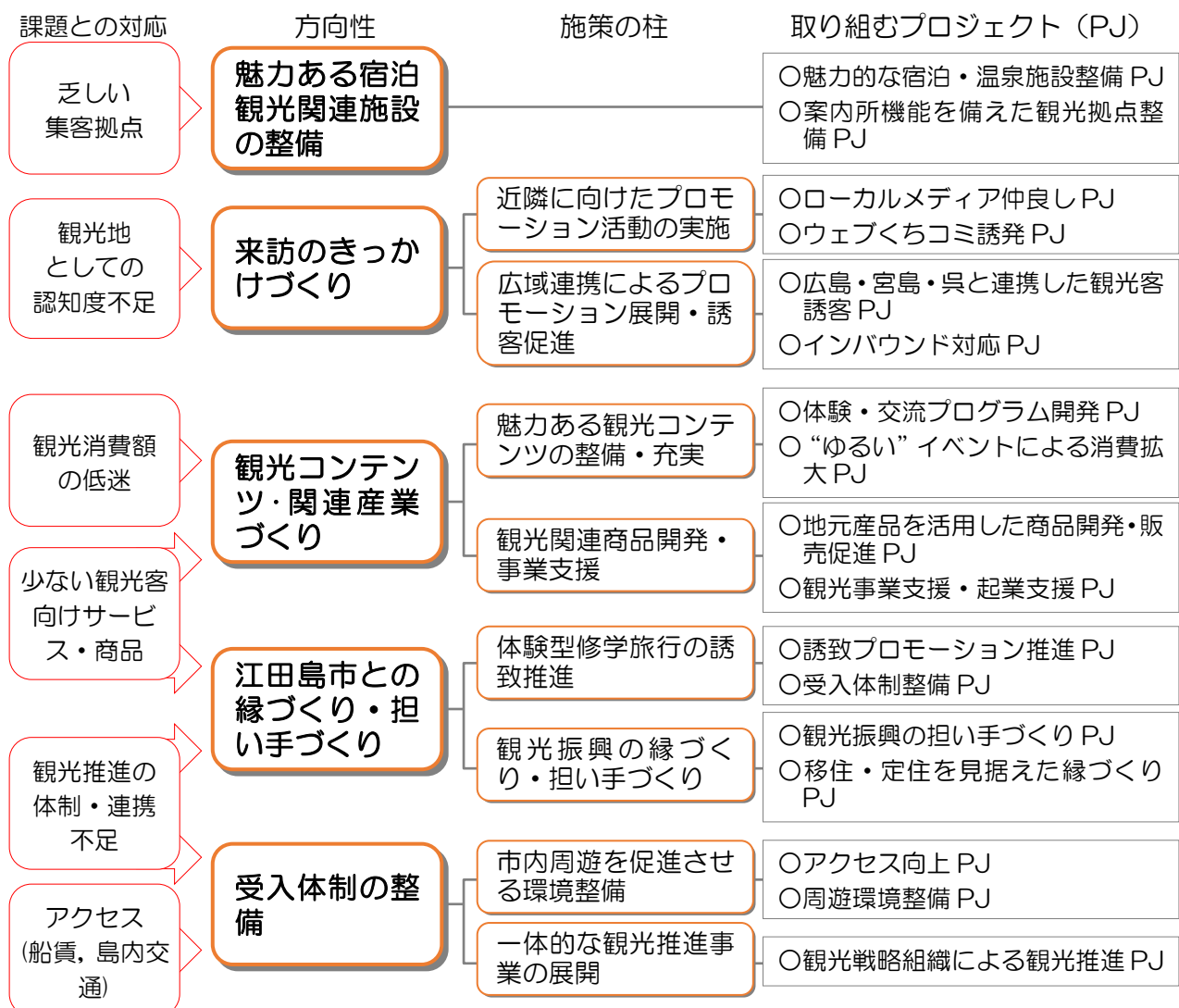
(1) 重点項目

観光振興の理念及び想定ターゲットを踏まえ、重点項目として以下の4つを掲げます。



(2) 施策の体系

観光振興の理念、想定ターゲット、重点項目を踏まえ、施策体系は以下のとおりとします。



4) 目標数値

	現状値（平成 27 年）	中間値（平成 31 年）	目標値（平成 36 年）
総観光客数	54 万人	69 万人	100 万人
観光消費額	7.7 億円	13.1 億円	29.0 億円
1 人あたり観光消費額	1,426 円／人	1,900 円／人	2,900 円／人

◆観光地分類別目標数値

（単位：千人，百万円）

観光地分類		現状値（平成 27 年）					観光振興方策	目標値 （平成 36 年）	
		県内観光客数		県外 客数	総観光 客数 （推計）	観光消 費額 （推計）		総観光 客数	観光消 費額
		市町内	市町外						
宿泊 施設	能美海上ロ ッジ	12.0	10.1	13.6	35.8	139.4	一体的に再整備	300.0	1,350.0
温泉 施設	シーサイド 温泉のうみ	61.5	20.6	15.6	97.7	85.0			
物販拠点施設や新た な観光サービス業		－	－	－	－	－	新たに整備	200.0	720.0
その他宿泊施設		3.9	5.4	3.1	12.4	82.0	拠点整備による 宿泊増	15.0	103.0
教育関係施設 （国立江田島青少年 交流の家、学びの館 等）		14.7	101.6	7.8	124.1	271.0	ファミリー層向 け内容拡充、リペ ーター確保等	126.5	300.0
行祭事・イベント		21.8	8.7	1.6	32.2	12.9	市外からの集客 増・消費増	35.0	35.0
みかん狩・いちご狩		3.1	9.8	0.4	13.2	18.4	体験活動として PR推進等	15.0	20.0
海水浴場		3.8	10.9	2.7	17.5	12.9	夏季のマリンス ポーツの推進等	20.0	25.0
その他施設 （旧海軍兵学校、ふる さと交流館、海辺の 新鮮市場等）		53.0	70.4	55.2	178.5	82.4	活動の継続、サイ クリスト向け施 設拡充等	191.9	128.0
その他 （サイクリング、民泊、 キャンプ場、登山他）		1.7	24.6	2.0	28.3	65.8	アクセス改善、誘 致プロモーショ ン推進等	96.6	219.0
計		175.4	262.1	102.0	539.5	769.8		1,000	2,900

（資料）江田島市資料

5. 具体的方策

施策の体系に基づき、次の方策により各事業を進めます。なお、計画期間内を前期、中期、後期の3期に分け、主な事業について各期末に検証を行うとともに、4つの重点項目については可能な限り前期において進めます。

4つの重点項目に関連するプロジェクトには、以下のマークを付記しています。

発掘 観光素材・人材の発掘

拠点 観光拠点の整備

情報 情報発信の仕組みづくり

体制 観光推進体制づくり

1) 魅力ある宿泊観光関連施設の整備

本市の課題として目的地となる観光拠点が乏しいことが挙げられており、その対策として、観光の目玉となるような集客スポットを整備し、観光客を島内に呼び込みます。また、観光センター機能を充実させ、観光に関する情報を一元化することにより、観光客に分かりやすく利用しやすい観光拠点とします。

<プロジェクト>

①魅力的な宿泊・温泉施設整備プロジェクト **拠点**

能美海上ロッジ周辺地域は、中町港から徒歩圏内であり広島からのアクセスも良いことから、老朽化した「能美海上ロッジ」に替わる魅力的な宿泊・温泉施設として一体的に再整備し、本市の観光の目玉となるような集客スポットづくりを進めます。

<主な事業>

	H29	H30	H31～
能美海上ロッジ周辺地域整備事業	・ 民間事業者選定 ・ 既存施設解体	・ 新規施設整備	・ 新規施設営業開始

②案内所機能を備えた観光拠点整備プロジェクト **拠点**

自家用車やサイクリスト等、多様な観光客が立ち寄ることができる観光拠点づくりを進めます。観光案内所機能を併設し、周辺への周遊行動を誘発するとともに、物販、飲食機能により地元産品の販売拠点、土産物等の購入拠点とします。また、トイレや休憩施設、緑地等の整備を一体的に行うことにより、観光客に使いやすい施設づくりを進めます。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
観光拠点整備事業	・ 設置場所、機能に関する調査	・ 事業計画立案 ・ 工事着手	・ 新規施設整備 ・ 新規施設営業開始

2) 来訪のきっかけづくり

(1) 近隣に向けたプロモーション活動の実施

本市の魅力を発掘し、ターゲットに応じてイベント開催と情報発信を組み合わせ、様々な人が「江田島に行ってみよう」と思うきっかけづくりを進めます。

<プロジェクト>

① ローカルメディア仲良しプロジェクト **情報 発掘**

主たるターゲットとなる近隣都市圏（広島市、呉市）居住者に対して、テレビ・ラジオ、新聞、雑誌等、ローカルメディアを活用した情報発信を行います。イベントの開催告知をはじめとして、新たな施設・店舗のオープン情報や花、オリーブ、カキ等に関する旬の話題等、メディアの特性に合わせて定期的に情報提供するとともに、新たなアンテナショップでの情報提供、取材への対応・同行等によりローカルメディアとの密接な関係づくりを進めます。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
マスコミ向け情報提供体制構築	・観光協会内に「観光仕掛人」の配置	・メディアとの関係構築、情報提供	・継続的な情報提供システムの構築
アンテナショップ事業	・設置場所の検討	・参画事業者の確保 ・ショップの開設	・継続的なショップの運営

② ウェブくちコミ誘発プロジェクト **情報**

一枚の写真、動画がウェブ上で拡散することにより、来訪のきっかけづくりに繋がることから、実際に江田島を訪れた人（観光客）や居住している人（市民）のウェブ上のくちコミによる情報発信を重視し、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）をはじめとするインターネットツールの活用を進めます。また、ロケ地となった映画のヒット等、観光コンテンツの「ブーム」を掴み、人の流れを誘導するためにも、ウェブ上の情報発信の活用が期待されます。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
ウェブコンテンツ整備事業	・コンテンツ毎の動画作成、ウェブ掲載 ・SNSによるくちコミサイトの設置	・「ブーム」となっている観光コンテンツに着目した情報発信	・継続的なウェブ情報発信

参考事例：3776 人の富士好きびと(=ふじ氏)による、富士の魅力発信！（静岡県富士市）

- 静岡県富士市は、富士山や富士市を愛する皆さんの交流を深め、世界遺産に登録された「富士山」が美しく見える街「富士市」の魅力を発信・共有することを目的に、2013 年 1 月から SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の一つであるフェイスブックを活用したページ「3776 人の富士好きびと(=「ふじ氏」)による、富士の魅力発信！」を開設。
 - 「ふじ氏」の登録者が、「ふじ氏」投稿システムを経由して、フェイスブックに情報を投稿すると、投稿者「ふじ氏」として情報が掲載され、情報の共有や拡散が期待できる。
- （出典）富士市ホームページ（<http://www.city.fuji.shizuoka.jp/>）

(2) 広域連携によるプロモーション展開・誘客促進

広島市や呉市、廿日市市と連携し、近隣を訪れている観光客に向けた本市への誘客促進を図るほか、関西圏、首都圏をはじめとする国内各地に向けて、広域都市圏の一部としてプロモーションを行います。

また、外国人観光客に対しては、外国対応が可能なコンテンツを整備するとともに、せとうち観光推進機構等の広域観光推進組織に対する情報提供を進め、瀬戸内海地域として一体的にプロモーションを行います。

<プロジェクト>

①広島・宮島・呉と連携した観光客誘客プロジェクト 情報

主たるターゲット層として位置付ける広島、宮島、呉を訪れる観光客を対象として、本市のイベントや周遊ルートに関する情報発信を進めるほか、宮島や呉から江田島への観光船就航等、広島、宮島、呉と連携した本市への誘客促進策を展開します。また、首都圏や関西圏等、国内他地域に向けたプロモーションにおいても、広域都市圏の一部として参画し、自然やマリニレジャー、体験活動、宿泊機能等を積極的にPRします。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
広島、宮島、呉を訪れる観光客の誘客事業	・関係自治体・観光協会との連携体制構築	・各所での情報発信 ・誘客促進方策の企画・立案・実施	・連携による情報発信、誘客促進事業の継続
広域誘客促進事業	・県内他市との共同プロモーション事業への参画	・広域都市圏における「島」の魅力の確立、PR	・連携によるプロモーション事業の継続

②インバウンド対応プロジェクト 情報 発掘

今後、増加が期待される訪日外国人観光客（インバウンドツーリスト）に対して、マリニレジャーや宿泊施設など滞在型コンテンツの英語対応化を進める等、受入環境整備を行うとともに、広域観光推進組織のプロモーションに資する情報提供を行います。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
受入環境整備事業	・現状把握（民間事業者の意向把握）	・滞在型コンテンツの英語化支援、人材育成	・新規宿泊施設等、外国人観光客対応施設の充実
インバウンド向け広域連携事業	・せとうちDMO等広域観光推進組織の取組への参画	・インバウンド対応可能施設・体験に関する情報発信	・情報発信の継続

※「DMO」とは「Destination Management / Marketing Organization（観光地マネジメント／マーケティング組織）」の略称で、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役を担う組織のことを指します。
（出典）国土交通省観光庁ホームページ

3) 観光コンテンツ・関連産業づくり

(1) 魅力ある観光コンテンツの整備・充実

江田島市内の滞在時間を延ばすため、体験・交流プログラムの開発や伝統文化・芸能の保存・継承といった魅力ある観光コンテンツの整備・充実を図ります。また、各種スポーツ大会等、参加者や応援者の来訪・消費が期待される多彩なイベントを実施し、地元消費を促します。

<プロジェクト>

① 体験・交流プログラム開発プロジェクト **発掘**

「見る観光」から「体験する観光」へと変化している観光客ニーズに対応し、海に囲まれた立地や自然を生かした体験メニューの開発、伝統文化・芸能の保存・体験活動を進めます。また、カヌー、サイクリング、ハイキングなど「アクティビティに適した環境を持つ江田島」というイメージの確立を図ります。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
体験・交流プログラム開発事業	・活用可能な資源・事業の調査 ・民間事業者意向調査	・体験・交流プログラムの開発・実施 ・修学旅行等での活用	・一般客を対象にした体験・交流プログラムの継続展開
アクティビティの島発信事業	・アクティビティ毎の担い手把握、支援メニュー立案	・一体的な情報発信 ・イメージ戦略の立案・実施	・継続的な事業実施

参考事例：パドルパーク（廿日市市）

○JR山陽本線前空駅から徒歩圏内にあるシーカヤックショップ。カヌー・カヤックの体験ツアー・スクール・ツーリングを中心としたイベントの企画のほか、マリングッズ販売も行う。

○初心者向けの「宮島体験シーカヤックツアー」（3時間、大人 6,480 円・子供 4,320 円、毎日午前と午後の2回開催）は、陸上での練習後、宮島へ向けて漕ぎ出す。宮島の大鳥居をくぐるなど、宮島の自然を感じられる海散歩を体験することができる。

（出典）KAYAK SPACE パドルパーク（<http://www.paddlepark.com/>）



② “ゆるい” イベントによる消費拡大プロジェクト **発掘**

えたじまウォーキング、かきカキマラソン大会をはじめとして、グラウンドゴルフ大会等、地元産品の物販ブースを併設した参加者も応援者も楽しめるイベントを積極的に開催し、地元消費の拡大を図ります。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
地元消費に資するイベント開催事業	・既存イベントの精査 ・物販ブース併設のシステム化	・個別イベントの効果検証、精査 ・地元産品の拡大	・継続的な事業実施

(2) 観光関連商品開発・事業支援

観光客の市内における消費を促すため、地元産品を活用した商品（加工品、土産物、食事メニュー等）を開発します。販売促進にあたっては、大きさやネーミング、パッケージ等の商品デザインを重視し、観光客にとって魅力的な商品づくりを進めます。

また、空き店舗、空き施設等の遊休地・施設を活用した観光関連事業展開を支援するとともに、観光関連の起業についても支援し、観光関連産業の強化、雇用増加を図ります。

<プロジェクト>

① 地元産品を活用した商品開発・販売促進プロジェクト **発掘**

オリーブ、カキ等の特産品を活用し、農産物の地域特産品やブランド化による新商品開発事業や、生産・加工・販売等の総合的かつ一体的な事業推進による6次産業化への取組を進めます。また、効率的で衛生的な流通・販売体制を強化するため、水産加工施設や冷凍冷蔵施設、いけすの整備を図ります。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
6次産業化支援事業	・新商品開発事業の推進、試験販売	・販売場所、流通経路の確保	・継続的な販売、流通
流通・販売体制強化事業	・必要施設に関する調査	・商品化に向けて必要な施設整備	・流通量確保に向けて必要な施設整備

参考事例：高野の逸品100プロジェクト事業(庄原市)

○中国やまなみ街道開通に伴う「道の駅たかの」の開業に向け、2011年より高野の農産品を活用した特産品の開発に取り組み、専門家による指導のもと、商品開発・販売・流通、統一感のあるパッケージデザインの導入を行った。

○「高野の逸品」ブランド認定制度を設け、優れた商品を選定・認証し、ブランド価値の向上に取り組むほか、既存特産品のブラッシュアップや生産者の人材育成、新たな逸品の開発などにより、生産・販売量の増加を目指している。

○道の駅たかのでの販売のほか、百貨店と連携、広島ブランドショップ「TAU」での販売、ギフトカタログによるお中元・お歳暮の販売などにも取り組む。

(出典) 広島県ホームページ (<https://www.pref.hiroshima.lg.jp>)



② 観光事業支援・起業支援プロジェクト **発掘**

パン屋、カフェ等、近隣都市圏住民の立ち寄り場所として利用されやすい新たな飲食・物販施設の増加を促すため、空き店舗・施設の情報把握・発信、初期投資経費の一部支援等の起業支援を行うなど、公益財団法人ひろしま産業振興機構等の関係機関と連携を取りながら島内在住者や移住者の創業・起業を支援し、観光客を対象としたサービス産業の拡充を図ります。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
起業・新規参入支援事業	・支援メニューの一元化、情報発信	・新規創業・起業の事業開始	・事業の継続

4) 江田島市との縁づくり・担い手づくり

(1) 体験型修学旅行の誘致推進

体験型修学旅行について、江田島海生体験交流協議会の事務局として、旅行会社等へのプロモーションを進めるとともに、民泊（ホームステイ）家庭の研修、体験プログラムの整備等、受入体制を整え、小・中・高の各世代において江田島市との縁のある人を増やします。

<プロジェクト>

①誘致プロモーション推進プロジェクト **発掘**

主に春季に来島する中学校、秋季に来島する高等学校を対象として、広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会と連携し、首都圏、中部圏、関西圏、九州圏等の旅行会社を対象としたプロモーションを行い、誘致を推進します。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
旅行会社プロモーション事業	・ベイエリアのメンバーとしてプロモーション実施	・プロモーション継続 ・来島経験校のリピート獲得	・協議会独自プロモーション展開

②受入体制整備プロジェクト **体制**

受入体制の整備として、講演会や実地研修、公衆衛生研修等の民泊（ホームステイ）家庭の研修のほか、シーカヤックやカキ打ち体験等、修学旅行向けの教育効果の高い体験プログラムの整備を進めます。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
民泊（ホームステイ）研修・拡大事業	・質の高い民泊を保つための研修実施 ・新たな民泊家庭確保	・民泊研修の継続 ・民宿（簡易宿所）営業許可取得支援	・民宿増による継続的な受入体制の確保

(2) 観光振興の縁づくり・担い手づくり

観光ボランティアガイドや観光関係の活動を行う団体の育成・支援や地域おこし協力隊OB人材による地域活性化支援等、観光振興の担い手を育成し、観光で来島した方との人と人との交流を深め、「また来たい」「住んでみたい」人を増やす縁づくりを進めます。

また、出身者、移住希望者を対象とした組織の拡充を進め、移住希望者に対する暮らし体験や、観光関連産業による雇用創出により、観光による移住促進を図ります。

<プロジェクト>

①観光振興の担い手づくりプロジェクト **発掘 体制**

観光ボランティアガイドを継続的に養成し、江田島市内の観光資源の紹介、市のイメージアップを図ります。また、地域が連携・協力しあって活動するまちづくり協議会や各種団体の活動を支援し、地域の活性化を推進します。さらに、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、住民の生活支援などに従事している地域おこし協力隊員等について、地域内外での人脈を活用し、任期終了後に観光振興の担い手として活用し、協力隊員の定住・定着を図ります。観光振興の担い手を増やすことにより、リピーターやコアファンを生む「江田島の人に会う旅」づくりを進めます。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
観光振興の担い手づくり事業	・ボランティアガイド養成，地域団体育成	・ガイド養成の継続 ・有償ガイド化に向けた検討 ・地域おこし協力隊OB人材等を活用した事業展開	・「江田島の人に会う旅」の展開

②移住・定住を見据えた縁づくりプロジェクト **情報 発掘**

江田島ファンネット、東京江田島ファン倶楽部等、既にあるファン組織の充実を図り、リピーターやコアファンを増やします。また、移住に関する情報をリピーター・コアファンに提供することにより、観光から移住・定住への展開を促します。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
観光による移住促進事業	・リピーター，コアファンの組織化 ・移住情報の提供	・リピーター組織の拡充・活動深化	・移住政策との連携による移住・定住推進

5) 受入体制の整備

(1) 市内周遊を促進させる環境整備

江田島市の観光振興の課題となっているアクセスについては、マイカーやレンタカー、自転車が走りやすい島内の道路整備を進めるとともに、利便性の高い海上及び陸上の公共交通サービスの確保を進めます。また、観光客の島内周遊促進のための施設整備、案内看板整備とともに、観光マップ、観光アプリ等、情報ツールの開発を進めます。

<プロジェクト>

①アクセス向上プロジェクト

自動車及び自転車の走行が困難な狭隘道路については、一部拡幅する等の道路整備を進め、団体バスの通行経路確保とともに、サイクリングロード整備計画に基づき、「かしま海道サイクリングロード」の整備を進めます。また、海上交通及び陸上交通において、効率的かつ効果的な地域公共交通サービスの提供を図るため、市民や事業者などと協議・調整し、必要な取組や支援を行います。

<主な事業>

	H29～H36		
道路整備事業	・サイクリングロード整備に伴う拡幅・改修 ・サイクリングロード整備事業継続		
	H29～30	H31～33	H34～H36
公共交通の利便性向上	・観光客の利便性を考えた公共交通の見直し ・観光客に使いやすい公共交通ダイヤの情報集約・発信	・利便性向上に向けた取組推進	・利便性向上に向けた取組推進

②周遊環境整備プロジェクト

江田島市内の観光やサイクリスト、外国人観光客の増加に対応し、観光施設における無料Wi-Fiの整備や案内表示看板の設置等、観光情報等を発信するための施設整備を行います。また、瀬戸内海で一番利用しやすいトイレのある島を目指すため、主要道路沿いに概ね2km間隔にトイレを整備する等、既存施設の美化推進や利用者ニーズに応じた整備を行います。さらに、自転車のメンテナンス工具等を備えたサイクリングスペースを持つ休憩拠点を整備します。

また、情報ツールとして、飲食店や土産物の情報を含む観光マップの充実・更新や、スマートフォン利用者を対象とした観光アプリの開発を進めます。

<主な事業>

	H29～30	H31～33	H34～H36
情報・休憩拠点整備事業	・無料Wi-Fi整備 ・案内表示看板設置 ・トイレ整備方針検討	・サイクリング客向け休憩スポット整備 ・トイレ整備	・新たな施設整備に伴う総合観光案内所の開設
情報ツール作成事業	・観光マップの充実・更新	・観光アプリの開発・リリース	・情報発信媒体の継続更新

（２）一体的な観光推進事業の展開

江田島市観光推進組織を設置し、市と観光協会、商工会、観光関連事業者・団体が一体となって観光事業を進めます。

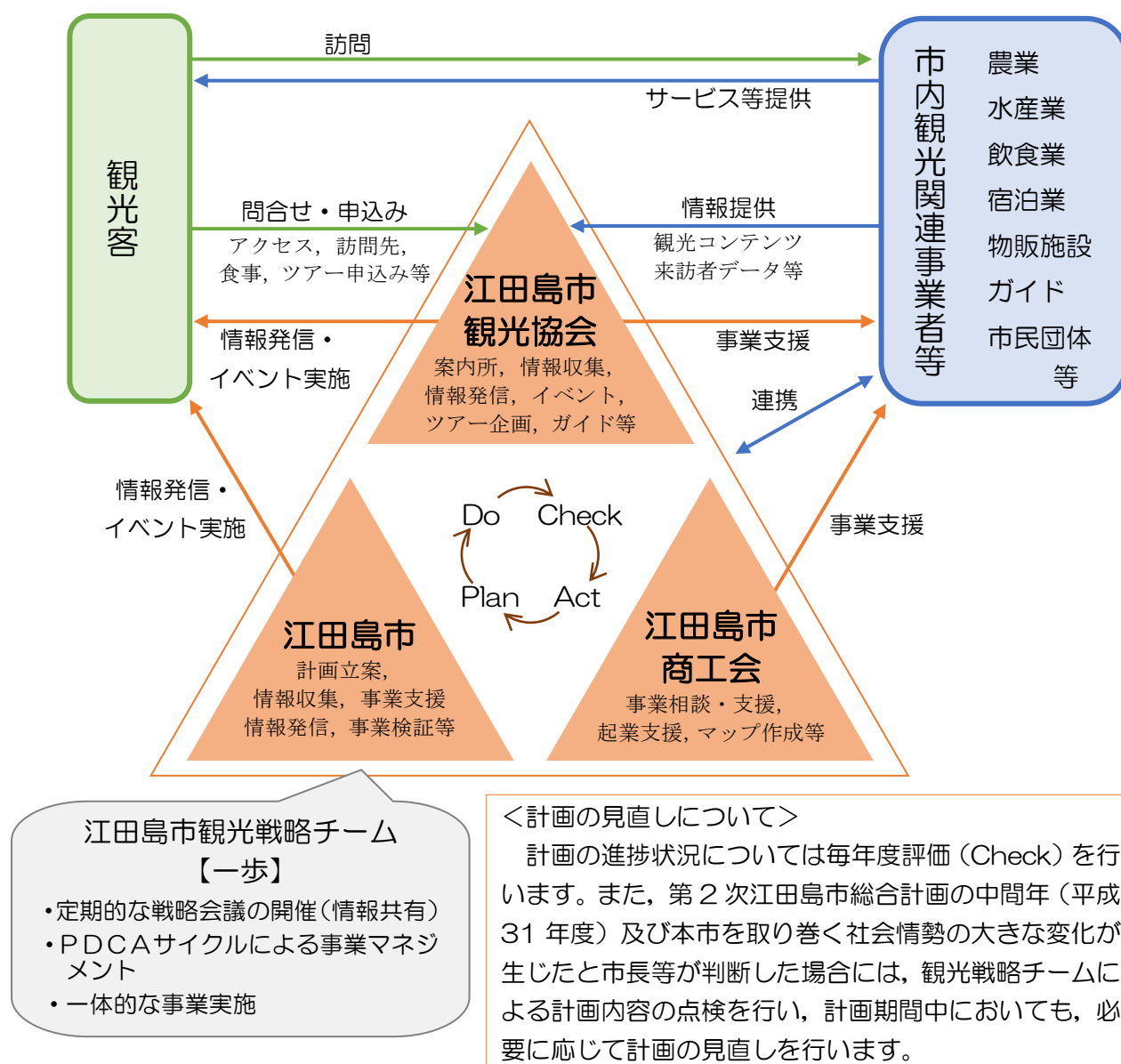
＜プロジェクト＞

○観光戦略チームによる観光推進プロジェクト **体制**

観光協会の人員拡充を行い、観光振興の推進役としての機能の充実を図るとともに、市、商工会との三位一体組織として江田島市観光戦略チームを設置します。戦略チームでは、定期的な来訪者調査の実施、市外の旅行会社や市内観光事業者へのヒアリング、近隣観光地との定期的な情報交換、観光振興に向けたマーケティングを行うための基礎データ収集を行い、社会情勢や観光客ニーズの変化に迅速に対応した観光施策の立案・実施を行います。

また、観光事業の立案（Plan）・実施（Do）の後、効果検証（Check）を行い、新たな施策を展開する（Action）という PDCA サイクルによる事業運営を行い、効果的な観光施策を進めます。

観光推進体制のイメージ



観光エリア別特徴・観光資源

エリア名称	特徴	主な資源	体験メニュー	主なターゲット
宿泊施設・長瀬海岸・真道山周辺	江田島市の中心的な位置にあり、江田島湾内を見渡せる温泉施設や海水浴場でのカヤック体験のほか、近くにはキャンプ場やミカン狩りが楽しめる。	・宿泊施設 ・シーサイド温泉のうみ ・ヒューマンビーチ長瀬 ・のうみ海の駅 ・真道山森林公園	・マリンスポーツ（カヌー体験） ・ミカン狩り ・キャンプ ・温泉 ・観光遊漁船 ・観光農業	○全般
江田島青少年交流の家周辺	教育施設である国立江田島青少年交流の家では海や山を活用した各種体験研修メニューが揃っている。カッター訓練は特徴ある研修内容となっている。	・国立江田島青少年交流の家 ・切串港 ・クマン岳	・各種研修 ・乗馬・卵拾い	○小中高生，大学生，社会人
海上自衛隊第1術科学学校周辺	小用港からのバスのアクセスも良い海上自衛隊第1術科学学校の見学を中心に，観光客の多いエリアとなっている。	・海上自衛隊第1術科学学校 ・小用港 ・古鷹山	・各種研修 ・登山	○全般
サンビーチおきみ周辺	江田島市の西に位置し，各種宿泊施設や海水浴場がある。サイクリストにも人気が高く，宮島の裏側へ沈む夕日は絶景である。	・サンビーチおきみ ・入鹿海水浴場 ・がんね跡地 ・やすらぎ交流農園 ・三高山（砲台跡） ・宇根山（野登呂山）	・マリンスポーツ ・サイクリング ・宿泊 ・観光遊漁船 ・グランピング ・登山	○若年層
早瀬大橋周辺	江田島市への陸の玄関口である早瀬大橋周辺では，海水浴場でのカヤック体験や江田島オリーブファクトリーなどがある。	・長浜海水浴場 ・江田島オリーブファクトリー ・マリンピア王泊 ・羅漢石 ・陀峯山	・マリンスポーツ（カヌー体験） ・釣り堀	○若年層・ファミリー層 ○カップル～中高年層
さとうみ科学館・沖野島周辺	江田島市の南東に位置し，さとうみ科学館の自然観察や瀬戸内海最大の無人島（大黒神島）等，自然豊かな地域となっている。	・沖野島マリーナ（おおがき海の駅） ・さとうみ科学館 ・オリーブ造成団地 ・沖野島 ・大黒神島	・マリンスポーツ ・自然観察会 ・観光遊漁船	○アクティビティを好む若年層・ファミリー層

江田島市のサイクルステーション・トイレ



※トイレは江田島市調べ(H27.12)であり、市管理の他、民間施設も含まれている。

(資料) 江田島市資料

資料編

1) 策定経緯

(1) 策定委員会

	開催日時	検討内容
第1回	平成28年11月16日(水) 13:30~15:30	○計画策定の狙い, 現状と課題, 進め方, 計画骨子(案)に関する意見交換
第2回	平成29年2月14日(火) 14:00~16:00	○幹事会での検討内容の報告 ○計画(案)に関する意見交換
第3回	平成29年2月26日(日) 10:00~12:00	○計画(案)に関する意見交換

(2) 幹事会

	開催日時	検討内容
第1回	平成29年1月13日(金) 10:00~12:00	○計画(素案)の検討
第2回	平成29年2月2日(木) 10:00~12:00	○計画(案)の検討

2) 策定委員会設置要綱

江田島市観光振興計画策定検討委員会設置要綱

平成28年9月30日

告示第84号

(設置)

第1条 江田島市観光振興計画（以下「計画」という。）の策定に当たり、本市の観光振興について幅広く意見を求めるため、江田島市観光振興計画策定検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 検討委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 計画の策定に関すること。
- (2) その他計画の策定に関し必要な事項

(組織)

第3条 検討委員会は、別表第1に掲げる者（同表所属等欄に団体名が掲げられているものにあつては、当該団体から選出された者をいう。）をもって構成する。この場合において、検討委員会が必要と認める者がいるときは、当該者を委員とすることができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、1年とする。ただし、委員が委嘱されたときの要件を欠くに至ったときは、その委員は退任し、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 検討委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により選任する。

3 委員長は、会議（第7条第1項に規定する会議をいう。）を招集し、これを主宰する。

4 副委員長は、委員の中から委員長が指名する。

5 副委員長は、委員長を補佐して検討委員会の業務を掌理し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長の職

務を代理する。

（オブザーバー）

第6条 検討委員会は、別表第2に掲げるオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、会議に出席し、委員長の求めに応じて必要な意見を述べることができる。

（会議）

第7条 検討委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集する。

2 会議は、委員の半数以上の者が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 会議に出席できない委員は、あらかじめ書面をもって意見を述べ、表決することができる。

5 委員長は、会議を開催する時間的余裕がないと認める場合、書類の回議をもって、会議に代えることができる。

6 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員及びオブザーバー以外の出席を求め、意見を聴くことができる。

（幹事会）

第8条 検討委員会に提案する事項について、協議又は調整を行うため、必要に応じ検討委員会に幹事会を置くことができる。

2 幹事会は、次に掲げる事項を処理することができる。

（1）第2条に掲げる事項の具体的な検討

（2）検討委員会の議決等を要しない事項の会務の執行

（3）前2号に掲げるもののほか、委員長が指示する事項

3 幹事会は、産業部長を幹事長とし、幹事として関係する職員等を幹事長が指名する。

4 幹事長は、前3項によって決定した事項について、委員長に報告するものとする。

(事務局)

第9条 検討委員会及び幹事会の事務局は、産業部観光振興課が行う。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成28年9月30日から施行する。

(任期の特例)

2 この告示の施行後、最初に任命される委員の任期は、第4条第1項本文の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。

別表第1(第3条関係)

役職	所属等
委員	学識経験者
委員	江田島市観光協会
委員	江田島市商工会
委員	えたじま観光ボランティアの会
委員	一般社団法人広島県観光連盟
委員	江田島市企画部長
委員	江田島市産業部長
委員	江田島市地方創生参与

別表第2(第6条関係)

役職	所属
オブザーバー	広島県商工労働局観光課

3) 策定委員会名簿

(1) 策定委員会

	委員名	団体名	摘要
1	市村 匠	県立広島大学 地域連携センター長	委員長
2	伊藤 富美雄	江田島市観光協会 会長	副委員長
3	平田 圭司	江田島市商工会 会長	
4	三浦 保正	えたじま観光ボランティアの会 会長	
5	植野 愛雄	一般社団法人広島県観光連盟 常務理事	
6	渡辺 高久	江田島市 企画部 部長	
7	長原 和哉	江田島市 産業部 部長	
8	上迫 滋	江田島市地方創生参与	

オブザーバー	大内 貞夫	広島県 商工労働局 観光課 課長
--------	-------	------------------

(2) 幹事会

	所属・役職	備考
1	江田島市 産業部 部長	幹事長
2	江田島市 産業部 観光振興課 課長	副幹事長 兼 事務局長
3	江田島市観光協会 事務局	
4	江田島市商工会 事務局長	
5	江田島市スポーツ推進委員協議会 会長	
6	江田島市文化財保護委員会 委員長	
7	呉農業協同組合 経済部営農販売課 課長	
8	江田島市漁業振興協議会 会長	
9	江田島市 企画部 企画振興課 課長	
10	江田島市 企画部 交流促進課 課長	
11	江田島市 産業部 産業企画課 課長	
12	江田島市 産業部 農林水産課 課長	
13	江田島市 教育委員会 生涯学習課 課長	